

ウェルカム  
茨城

Welcome Ibaraki

“誇り”を込めた冷凍・冷蔵技術で、  
高品質・高付加価値製品を生み出し、  
食の安心・安全に貢献

# 株式会社原製作所

## 本社工場（稲敷市）



代表取締役社長 原 正和 氏

### 自宅の廊下からスタート

株式会社原製作所（以下、原製作所）は、1947年（昭和22年）、東京都葛飾区にて現代表取締役の実父である原正歳氏が創業しました。

原正歳氏は、日本陸軍の糧秣廠<sup>(\*)1</sup>に勤務し、食糧の保管や流通に関する業務に携わっていました。戦後、糧秣廠の勤務経験を活かし、自宅の廊下で精米機に使用するコンベアバケット（小型コンベア）の製造を始め、その後、ガス湯沸かし器に使用する熱交換器の製造に着手しました。

1954年（昭和29年）、有限会社原製作所として法人成り、1960年（昭和35年）には現社名の株式会社原製作所へと組織を変更しました。この年から食品の流通に係る低温貯蔵や食品の急速冷凍に使用される、熱交換器とユニットクーラーを主力製品とする現在の事業形態へと変遷を遂げています。

### 受注生産で顧客の要望に応える 製品を提供

原製作所は、昭和22年に創業してから現在に至るまで、一貫して食に関連した事業を行ってきました。現在の主力製品である熱交換器は、貯蔵する食品の種類や特性に合わせて、銅・アルミ等の素材を組み合わせ製造しています。もう一つの主力製品であるユニットクーラーは、使う場所や顧客の条件に合わせて求められる仕様や性能が異なってくるため、「耐食性」や「結露対策」など、取引先のあらゆる要望に応じて製造しています。

これらの製品は、様々な使用環境に合わせて熱量計算から製作図面まで社内内で設計しており、見込生産によるレディ・メイド型ではなく、受注生産による板金部

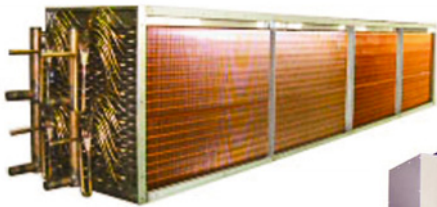
品加工から組立まで一貫したオーダーメイド型の生産体制により作り出されています。オーダーメイド型の製品には規格外の部品が必要になることもありますが、工場内には大型のプレス機を配備しており、従業員により一つひとつ製造されています。さらに、熱交換器の性能を左右するプレートフィンコイル<sup>(\*)2</sup>を製作する専用の圧入機も自社で開発し、製造しています。

また、原製作所では、取引先からの難易度の高い注文に応えるため、基礎研究や新商品開発にも力を入れています。工場内に実験室を設置し、計算値だけでなく実測値で具体的な冷凍能力を検証することで、品質改良につなげています。加えて、工場に勤務する従業員は、高度な製造技術を習得するため、OJTだけでなく、専門資格試験へも積極的に取り組んでいます。冷凍空調技士、冷凍機器溶接士等の有資格者名を工場内に掲示しており、従業員自ら資格取得に向けて自己啓発に励むインセンティブとなっています。

このようにして作り出されている製品の最終ユーザーは、全国津々浦々に存在しています。オンリーワンの商品であるため、修理等の対応もしっかりしなければなりません。原製作所では、納期遵守は当然のこと、修理だけでなくクレーム対応も迅速に対応することで、顧客満足度を高め、他社との差別化を図っています。



稲敷市の本社工場



熱交換器

ユニットクーラー



丁寧な組立

## 平成29年に完成した「本社工場」

東京都葛飾区で創業し、順調に成長してきた原製作所ですが、昭和40年代に入ると、工場の騒音問題等が発生してきたため、郊外への工場移転を検討してきました。そのような中、茨城県龍ケ崎市の敷地を紹介され、1969年（昭和44年）竜ヶ崎工場を建設、その後、1987年（昭和62年）に設計、資材部門が東京本社から竜ヶ崎工場に移転し、実質上の本社工場となりました。その後、営業部門や経理部門が竜ヶ崎工場に移転し、1989年（平成元年）には竜ヶ崎第二工場を取得、本社機能を次第に茨城県にシフトしていきました。

竜ヶ崎工場に本社機能を移転した原製作所でしたが、10tトラックが進入するのに苦労するほど接面道路が狭く多少不便な場所であったこと、業容が拡大していくにつれて敷地が手狭になってきたことから、竜ヶ崎工場近隣の地域で別工場の候補地を探し始めました。牛久市の工業団地等、あらゆる物件を見てきましたが、原製作所の希望する条件に合致した物件は中々見つからず10年が経過しようとした時、常陽銀行竜崎支店の担当者から紹介された物件が、現在の本社工場（稲敷工場）でした。

本社工場（稲敷工場）は、茨城県稲敷郡新利根町に敷地面積10,931㎡、建物1,839㎡の居抜き物件で接面道路は国道で広く、竜ヶ崎工場のようにトラックの搬入出に支障がありません。なにより、竜ヶ崎工場に近いので、従業員の通勤負担が変わらないというメリットがありました。

2004年（平成16年）、本社工場（稲敷工場）を取得、当時は本社機能が竜ヶ崎工場にあったため、稲敷工場としてスタートしました。翌2005年（平成17年）には工場の改修、2007年（平成19年）には増築を行い、竜ヶ崎第一、第二工場から順次事務所や製造部門を移転し工場の統合を進めてきました。2017年（平成29年）、稲敷工場に工場棟を増築、事務所を新築し、総建物面積4,884㎡を有する本社工場として工場統合

が完了しました。

現在の本社工場で働く従業員は72名（2017年4月現在）で、パートを含む社員の殆どが地元住民の方々です。また、毎年地元の高校生を採用しており、地域にとっては貴重な就業の場となっています。

## 「食の安心・安全」に貢献し続ける

食の安心・安全にかかる問題は、食品に関する事業者であれば第一義に取り組むべき問題です。異物混入等の事故が発生すると、過剰なニュース報道、SNSによる情報拡散等もあり、その企業の信用は失墜し、業績も坂道を転げ落ちるように下降、事業の存続危機に直面してしまいます。

原製作所の主力製品でもあるユニットクーラーに、万が一サビ等による腐敗が発生すれば、食品加工物への異物混入の原因となってしまいます。原製作所が、最終ユーザーである食品加工業者に高品質な製品を提供し続けることは、食の安心・安全に貢献し続けることに他なりません。

原製作所が創業して70年が経過しましたが、食の安心・安全を通して豊かな生活に貢献し続ける想いは不変です。近々社長交代による事業承継を予定していますが、この想いを持ち続けることにより、原製作所は次のステージに突入し、更なる発展を遂げられることでしょう。

- \*1 糧秣廠…兵士の食糧と軍馬の飼料を管理した日本陸軍の部署
- \*2 プレートフィンコイル…伝熱管にアルミや銅、ステンレス製のフィン（板）をはめ込んだもの。フィンとフィンの間隔をフィンピッチと呼び、原製作所では2mmから、0.1mm単位で製作可能。

会社概要	
所在地	(本社工場) 茨城県稲敷市下根本 7940-1 (倉庫 (本店登記)) 東京都葛飾区金町 2-25-9
業種	熱交換器・ユニットクーラー製造業
従業員数	72名
代表取締役社長	原 正和
連絡先	(本社工場) 0297-63-1171
URL	<a href="http://www.harass.co.jp/">http://www.harass.co.jp/</a>